

## ふるさと教育 取組事例

学校名	出雲市立第三中学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
1	総合的な 学習の時間	三中ふくしプロジェクト	地域の講師（福祉関係の仕事・活動をしている人、新聞記者）
ねらい		福祉の視点から街や暮らしを見直し、体験学習を通して自らの課題を探り、地域の福祉向上を見据えるとともに、自分たちの今後の生き方につなげていく。	
<p><b>1 取組の概要</b></p> <p>①福祉の概念、福祉の考え方等、福祉全般についての概要を学ぶ                  ②近所や通学路のバリアとバリアフリーを探し、福祉の観点からの工夫を調べてまとめる                  ③新聞記事の書き方について学ぶ（山陰中央新報社記者による講話）                  ④各自の希望に応じて各福祉分野の体験学習を行う                  ⑤今までの学習を生かして、探究課題を決め、情報収集・調査・分析・まとめを行う                  ⑥各自が新聞記事にまとめて掲示し、地域や保護者の方に見てもらう</p> <p><b>2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。</b>                  （ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）                  自分や家庭の周辺の環境や景観、街づくりの工夫などに興味をもち、そこで生活する人がどのような課題を抱え、何を必要としているかを考え、地域の一員として福祉の視点から自分にできることは何かを考える福祉学習を計画した。                  障がい、多文化理解、防災、高齢者、健康のための食など福祉に関わる活動をしておられる方々をお招きし、講話を聞き、実際に体験活動をした。その経験をもとに各自の課題を設定して、その解決に向けての探究活動を計画した。</p> <p>（学力育成の視点から）                  学習の過程で情報収集の能力を高め、習得した知識を整理・分類して、自らの課題を設定する力を身につけさせる。他者の意見を聞き、課題解決に向けて自分の考えを深めていく。また、それらを適切にまとめてわかりやすく表現する力を育成する。                  学んだことが自分の生き方や将来につながるよう、設定課題と自分との関わりはどこにあるかという視点を常にとり入れて学習を進めた。</p> <p><b>3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等）</b>                  （ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）                  福祉に関して地域にはどのような課題があるかを各自が考え、それぞれの課題解決に向けて学習を進めることによって福祉への関心が一層高まった。                  自分の身のまわりのバリアを探ることで、日ごろの生活の中にある課題に気が付く場面が見られた。福祉分野の全体像を知り、自分に何ができるかを考えるきっかけになった。</p> <p>（学力育成の視点から）                  情報収集と考察、プレゼンの技術が身に付いた。社会科や家庭科で学習した内容と関連付けて考察をすることができた。</p> <p><b>4 課題や今後の展望</b>                  今後も継続して福祉に関心をもち続けるにはどうすればよいか、地域の人材と接するためのスキルをどのように身に付けていけばよいかを考えていきたい。</p>			

令和5年度 ふるさと教育推進事業

